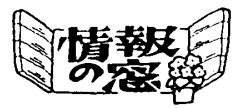


# 第7回 AHP 国際シンポジウム参加報告



佐藤 祐司 (松阪大学)

第7回 AHP 国際シンポジウム (ISAHP 2003) は、Peniwati 実行委員長 (PPM Institute of Management) のもと 2003 年 8 月 7 日～9 日、バリ島にある Melia Bali Hotel において開催された。本シンポジウムは AHP を中心とした国際会議としては最大の規模を誇るもので、2 年に 1 度開催されている (前回は ISAHP 2001, スイス)。今回も、AHP の開発者であるアメリカ Pittsburgh 大学の Saaty 教授の参加を得て、多くの参加者と共に活発な議論が展開される予定であった。

しかし、2001 年 9 月のアメリカ同時多発テロ以来の深刻な国際情勢や、SARS に対する不安を反映してか、当初よりシンポジウム参加予定者の動きは鈍く、23 の国と地域から 80 名の参加者しか見込めない状況で開催月を迎えた。さらにはシンポジウム直前の 8 月 5 日、首都ジャカルタの米国系ホテルで起きた自爆テロが追い討ちをかけ、10 名の尊い命を奪うとともに、本シンポジウムにも暗い影を落とした。少なからぬ研究者が参加を取り止め、これまでになく寂しい大会となった感は否めない。その一方で、自動小銃を抱えた兵士が会場内外を警戒する中、20 カ国から集まった 58 名の参加者は、小規模な開催となった本シンポジウムが醸し出すアットホームな雰囲気の中で、逆説的ではあるが、より熱心に討論に参加し、より深い交友関係を築いていたように思われる。

シンポジウム初日は、実行委員長の開会挨拶に続き “Time Dependent Decision-Making; Dynamic Priorities in AHP/ANP: Generalizing from Points to Functions and from Real to Complex Variables” と題する Saaty 教授の招待講演が行われた。Saaty 教授は、効用理論に対するひとつのアンチテーゼとして AHP を開発し、ANP へと発展させてこられたが、今回はとくに、規範的意思決定モデルと AHP/ANP との対比に力点を置いて講演されていた点が興味深かった。1 日目の午後からは 2 つの平行セッション



Saaty 教授を囲んで (Garuda Wisnu Kencana 公園にて)

において、さまざまな発表・討論が行われた。理論面では、AHP/ANP における整合度と安定性の関係、複素数を用いた一対比較と複素 AHP、集団意思決定におけるファジィ AHP モデルなど AHP の数学的な構造やさまざまなモデルに関する活発な討論が行われた。また応用面では、AHP/ANP を用いた、国際関係と投資環境の評価、自治体行政活動の優先順位付け評価法、流通センターの配置問題など広範多岐にわたる事例が紹介された。

これらの一般発表に加え 2 日目には、Saaty 教授夫人で、自らも AHP のエキスパートである Rozann 氏の、AHP/ANP 実行ソフトウェアを用いたデモンストラクション (“Validating the Analytic Hierarchy Process and the Analytic Network Process with Applications having Known and Measurable Outcomes”) が披露された。さらに最終日には、参加した研究者を対象とした rating method と AHP とを比較するライブ意識調査が行われるなど、AHP をテーマとするシンポジウムならではの試みもあった。

次回第 8 回は 2005 年 7 月、ハワイにおいて開催される予定である。多くの研究者の参加が期待される。

最後になりましたが、写真を提供して下さった名古屋学院大学の尾崎都司正先生に、この場を借りてお礼申し上げます。